
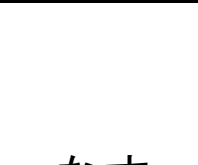
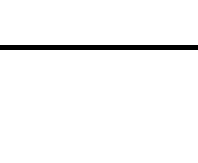


野菜の需給・価格動向レポート(平成26年12月15日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	11月の価格情報			12月の価格情報		生育及び価格の12月の見通し			
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額				
		中旬	下旬				上旬		
葉 茎 菜	キャベツ 	66.30	56	73	66.30	55	・入荷見込量：12,200(100) ・主産地：愛知(50)、千葉(30)、神奈川(9)、茨城(6)	・愛知産は、生育期の曇天により根の張りが弱く、一部のほ場で病害の発生も見られるが、最近の天候に恵まれたことから全般的には概ね生育は順調なことから、引き続き平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、適度な気温と降雨により、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・愛知産及び千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。	
		69.92	55	68	69.92	53	・入荷見込量：3,700t(104) ・主産地：愛知(59)、茨城(9)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ) 	218.22	192	211	218.22	201	・入荷見込数量：6,530(103) ・主産地：千葉(23)、埼玉(20)、茨城(17)、群馬(13)、栃木(8)、輸入(2)	・千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。埼玉産は、他作物の収穫作業との競合もあり、現在はやや少なめの出荷であるが、天候に恵まれ生育は順調であるため、今後は平年よりやや多めの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調で、現在は平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷であるが、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産、茨城産及び埼玉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれる一方、年末需要もあることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
		444.77	397	401	444.77	304	・入荷見込数量：220t(105) ・主産地：奈良(17)、徳島(14)、群馬(12)、高知(12)、三重(11)、香川(10)、大阪(8)		
	はくさい 	36.65	32	32	36.65	31	・入荷見込量：15,940t(105) ・主産地：茨城(92)	・茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であることに加え、主産地において他作物の収穫も終了し、今後は本格的な収穫・出荷となることから、引き続き平年よりやや多めの出荷となる見込み。 ・茨城産の出荷が平年より多めと見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。	
		53.29	45	47	53.29	47	・入荷見込量5,500t(100) ・主産地：茨城(23)、和歌山(13)、熊本(13)、愛知(11)、宮崎(10)、岡山(8)、大分(6)		
	ほうれんそう 	350.10	377	487	350.10	368	・入荷見込量：1,480t(100) ・主産地：群馬(41)、千葉(17)、茨城(16)、埼玉(15)	・群馬産は、気温が高く適度な降雨もあったことから生育は順調で、平年より多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、病害虫の発生はなく生育は順調で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。茨城産は、生育は順調で、引き続き平年より多めの出荷の見込み。埼玉産は、生育は順調で現在は平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産及び埼玉産の出荷が平年並み、千葉産及び茨城産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、先月まで平年を上回っていた価格は、平年並みに推移する見込み。	
		419.76	433	480	419.76	396	・入荷見込量：620t(116) ・主産地：徳島(43)、福岡(27)、群馬(15)		
	レタス (結球) 	136.79	95	156	233.85	135	・入荷見込量：7,000t(100) ・主産地：静岡(27)、茨城(17)、兵庫(14)、香川(10)、千葉(5)、福岡(5)	・静岡産は、台風の影響で定植が遅れたほ場からの出荷となり、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、天候に恵まれ病害虫の発生もなく生育は順調で前進出荷傾向となっており、現在は平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。茨城産は、出荷の終盤であり、出荷量は減少するものの、平年並みの出荷の見込み。 ・静岡産、兵庫産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、現在平年を下回っている価格は、平年の価格水準が上がる時期となることもあり、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
		147.25	110	169	226.75	141	・入荷見込量：1,180t(115) ・主産地：兵庫(54)、徳島(19)、香川(10)		
	たまねぎ 	76.15	72	75	76.15	76	・入荷見込量：10,960t(110) ・主産地：北海道(88)、輸入(5)	・北海道産は、現在は選別・調製を終えて倉庫に保管され、計画的な出荷が行われており、9月までに多めに出荷したこともあり、今後も引き続き平年をやや下回る出荷の見込み。 ・北海道産の計画的な出荷が見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き概ね平年並みに推移する見込み。	
		76.15	76	78	76.15	82	・入荷見込量：3,900t(103) ・主産地：北海道(67)、兵庫(29)		
果 菜	きゅうり 	262.75	370	394	370.98	337	・入荷見込量：4,700t(100) ・主産地：宮崎(41)、千葉(19)、高知(17)、埼玉(11)	・宮崎産は、最近の低温により肥大が停滞気味となっているため、引き続き平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は越冬物の出荷が出揃ったが、11月以降の天候が曇天続きと低温であった影響で、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。高知産は、天候に恵まれ病害虫の発生もないことから、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は病害虫の発生はないものの、最近の曇天と低温の影響で生育が停滞しているため、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産、千葉産及び埼玉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、価格は平年並み若しくは平年を上回って推移する見込み。	
		284.72	353	368	350.33	310	・入荷見込量：1,050t(94) ・主産地：宮崎(50)、高知(25)、徳島(10)		
	トマト (大玉) 	315.83	292	321	332.6	330	・入荷見込量：4,630t(102) ・主産地：熊本(44)、愛知(21)、千葉(9)、静岡(5)	・熊本産は、着果は良好であったが、最近の低温と曇天の影響で着色が鈍り、やや少なめの出荷であるが、今後は天候にもよるが平年並みの出荷の見込み。愛知産は、最近の低温により出荷量は減少気味であるが、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育は順調なことから大玉・秀品率の発生が多く、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるものの、熊本産、愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。	
		337.88	305	319	311.06	325	・入荷見込量：970t(97) ・主産地：熊本(72)、愛知(10)、徳島(6)		
	なす 	301.00	316	410	389.03	430	・入荷見込量：1,650t(100) ・主産地：高知(61)、福岡(20)、佐賀(4)	・高知産は、天候に恵まれ、病害の発生もないことから生育は順調で、現在少なめとなっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。福岡産は、最近の低温により肥大が停滞気味であるが、全体的には天候に恵まれ病害虫の発生もなく、生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・高知産及び福岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
		263.21	359	420	397.74	434	・入荷見込量：330t(99) ・主産地：高知(37)、熊本(26)、福岡(21)、岡山(7)		
	ピーマン 	344.39	296	298	344.39	346	・入荷見込量：1,530(100) ・主産地：宮崎(40)、茨城(32)、高知(15)、鹿児島(12)	・宮崎産は、最近の低温により生育は停滞気味であるが、病害虫の発生も特段ないことから引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、最近の低温により生育が停滞気味となっていることから、引き続き平年をやや下回る出荷の見込み。 ・宮崎産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年をやや下回ると見込まれることから、価格は平年を上回って推移する見込み。	
		353.61	270	282	353.61	360	・入荷見込量：300t(89) ・主産地：宮崎(64)、高知(23)、鹿児島(10)		
	根 菜	だいこん 	64.33	49	54	64.33	44	・入荷見込量：14,490t(105) ・主産地：千葉(48)、神奈川(42)	・千葉産は、生育は順調で品質も良好で太物中心の出荷となっており、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。神奈川産は、天候に恵まれ病害虫の発生もないことから、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産及び神奈川産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
			76.48	60	59	76.48	52	・入荷見込量：3,800t(101) ・主産地：石川(14)、長崎(14)、和歌山(12)、鹿児島(10)、千葉(9)、徳島(8)	
		にんじん 	100.82	84	84	100.82	81	・入荷見込量：8,980t(105) ・主産地：千葉(80)、埼玉(7)、茨城(4)、輸入(1)	・千葉産は、出荷の最盛期を迎え生育は順調で、太物の比率が高くなっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。埼玉産は、現在出荷のピークを迎えており、天候も良く生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・千葉産及び埼玉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
	104.49		81	83	104.49	105	・入荷見込量：2,300t(107) ・主産地：長崎(56)、鹿児島(16)、鳥取(13)、千葉(7)		

種類	11月の価格情報				12月の価格情報		生育及び価格の12月の見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	生育及び価格の12月の見通し	
		中旬	下旬				
いも	さといも	200.88	216	226	200.88	250	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉産は、天候に恵まれ、生育は順調で大玉傾向となっており、引き続き平年より多めの出荷の見込み。千葉産は、現在出荷の最盛期を迎えているが、これまでが前進出荷であったことやほ場により生育にバラツキが見られ、大玉の発生が少ないことから引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。</li> <li>・埼玉産の出荷が平年より多めと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれ年末需要もあることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> <li>・北海道産は、収穫は終了し、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。</li> <li>・北海道産の出荷が平年よりやや多めの出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年をやや下回って推移する見込み。</li> </ul>
		207.20	265	257	207.20	260	
	ばれいしょ	88.17	81	81	88.17	83	
		88.17	77	77	88.17	75	

注：1 平年価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。( )内は前年対比。さといもの大阪は前年実績。  
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

## 2 野菜の需要動向

年	生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)							
	過去5か年平均		平成25年		平成26年			
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	前年比	購入金額(円)	前年比
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	103	1,775	106
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	102	1,742	105
3月	4,836	1,772	4,961	1,769	4,958	100	1,878	106
4月	4,747	1,838	5,019	1,809	4,871	97	1,887	104
5月	5,103	1,902	5,257	1,861	5,146	98	1,993	107
6月	5,092	1,885	5,249	1,897	4,998	95	1,976	104
7月	4,423	1,712	4,456	1,783	4,542	102	1,770	99
8月	4,324	1,713	4,422	1,741	4,275	97	1,846	106
9月	4,768	1,803	4,577	1,863	4,745	104	2,035	109
10月	5,238	1,861	5,225	1,932	5,455	104	1,973	102
11月	4,993	1,671	4,852	1,806		0		0
12月	5,142	1,882	5,152	2,093		0		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁業世帯を除く))」

月	主要野菜の小売価格(東京都区部)					
	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成26年平均	5か年比(%)	過去5か年平均	平成26年平均	5か年比(%)
1月	198	267	135	673	684	102
2月	211	234	111	605	578	95
3月	200	200	100	498	459	92
4月	248	206	83	469	381	81
5月	169	175	104	371	351	95
6月	137	147	108	317	321	101
7月	153	171	112	322	358	111
8月	140	151	108	415	446	107
9月	149	228	153	506	871	172
10月	158	209	132	449	378	84
11月	162	122	75	421	321	76
12月	162		0	521		0

資料：総務省「小売物価統計調査報告」  
注：1 過去5か年平均は、平成21～25年の平均。  
2 平成26年11月の値は、11月中旬の速報値。

## 3 野菜の輸入動向

区分	野菜の輸入数量							
	平成24年		平成25年		平成26年1～10月		平成26年10月	
	前年比	前年比	前年同期比	前年同月比				
生鮮野菜	946,931	103	854,057	90	763,603	111	65,098	91
加工野菜	1,909,671	106	1,854,295	97	1,509,360	98	136,459	88
野菜合計	2,856,601	105	2,708,352	95	2,272,963	102	201,557	89
うち中国産野菜合計	1,458,418	103	1,415,901	97	1,172,227	103	119,040	93
中国産シェア	51		52		52		59	

資料：ペジ探(原資料)財務省「貿易統計」

品目	主な野菜の輸入数量			
	輸入先	平成25年11月(A)	平成26年11月(B)	(B)/(A)
		中国	米国	
たまねぎ	合計	30,681	22,911	75
	中国	25,600	20,606	80
	米国	5,081	2,272	45
にんじん	合計	6,831	3,987	58
	中国	6,750	3,973	59
	米国	34	30	88
ねぎ	合計	4,707	3,578	76
	中国	4,680	3,575	76

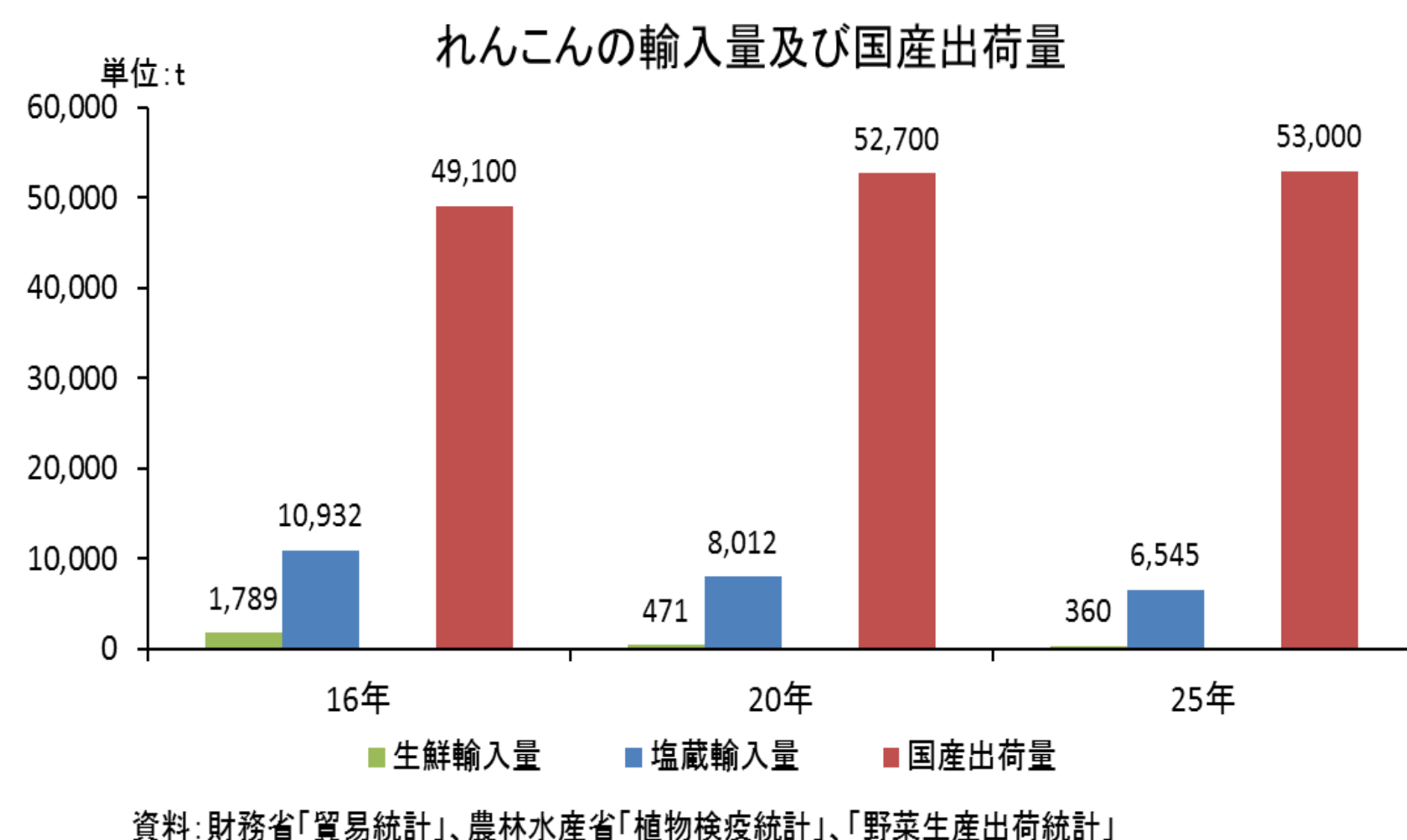
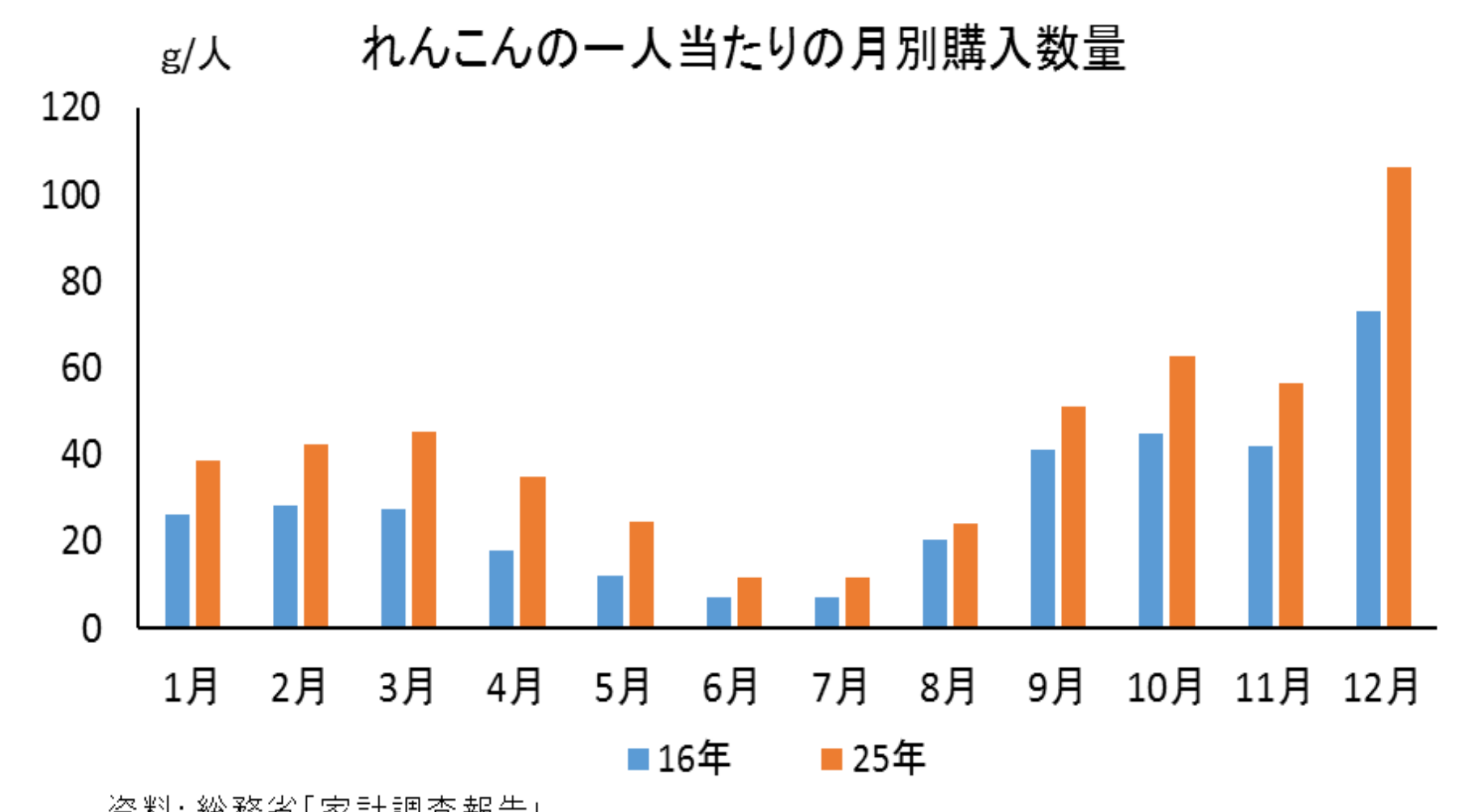
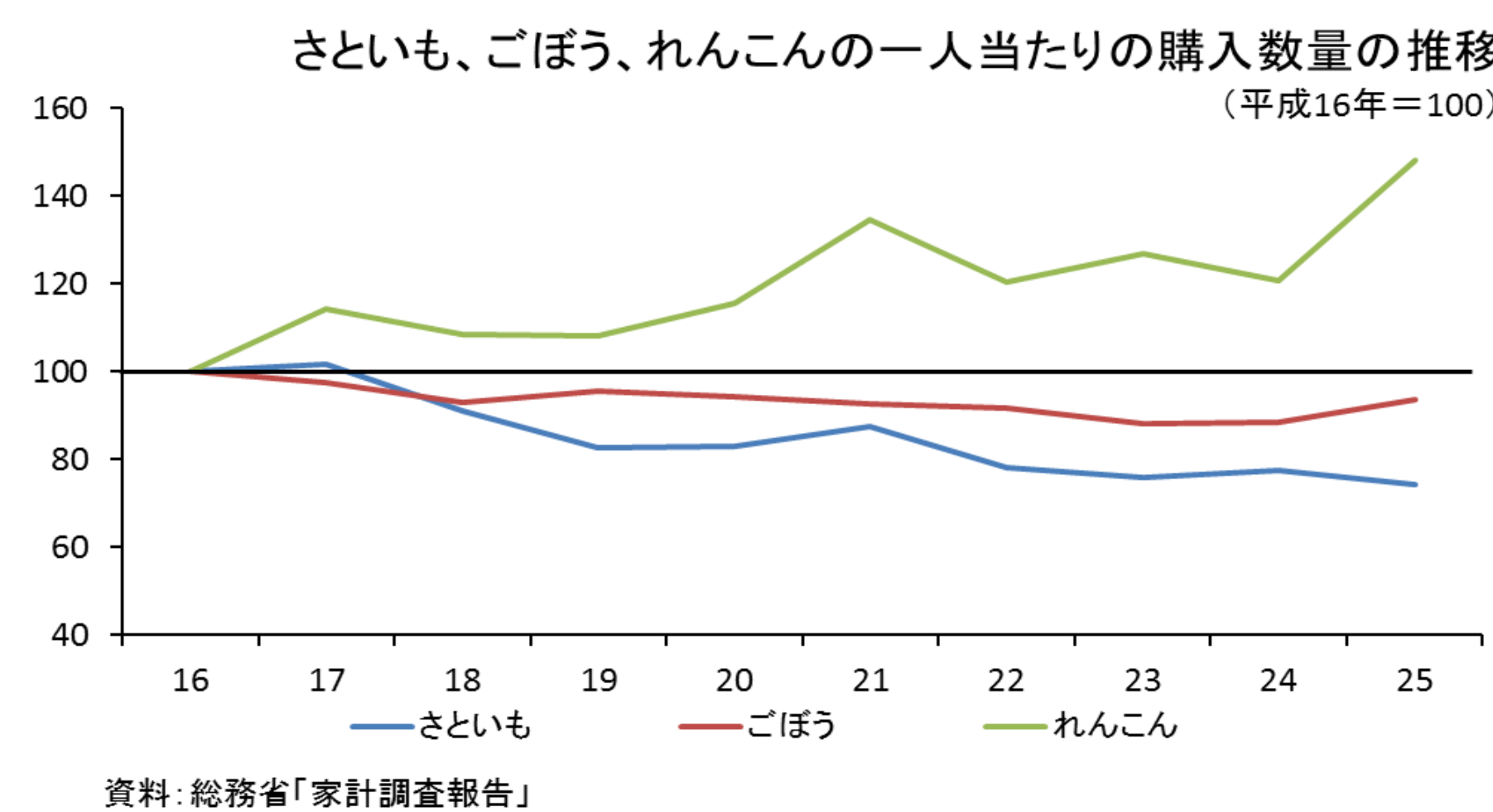
資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年11月は速報値。

## 4 トピック — おせち料理の定番野菜(さといも、ごぼう、れんこん)の消費動向 —

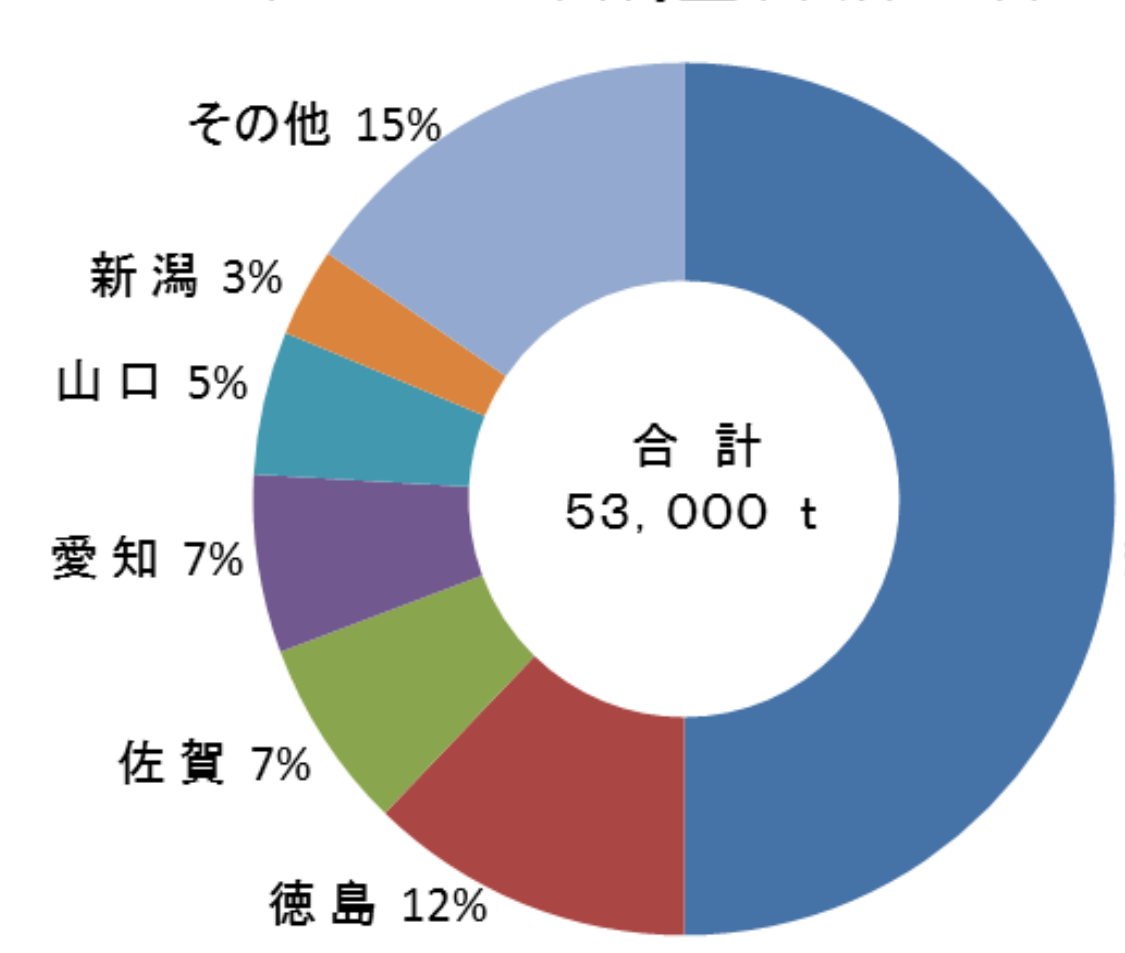
お正月のおせち料理には、小芋が多く出ることから子孫繁栄を願う「さといも」、地中にしっかり根ざすことから生活の安定を願う「ごぼう」、穴が多く開くことから先が見通せることを願う「れんこん」と、いわゆる縁起物の野菜が欠かせず、12月はこれらの品目の消費が大きく伸びる時期である。さといも、ごぼう、れんこんの一人当たりの家計購入量(平成16年=100)の推移をみると、平成25年には、さといもが▲26%、ごぼうが▲6%減少する一方、れんこんは+48%と大幅に増加している(さといも684g、ごぼう668g、れんこん511g)。同様に月別の動きを平成16年と25年で比較すると、特に12月の伸びが大きくになっている。

れんこんは、ビタミンCや豊富な食物繊維、胃粘膜を保護するルチンやポリフェノールの抗アレルギー作用などが注目されており、最近では肉料理など家庭向けの新しいレシピも普及している。さらに外国産に比べて良食味である国産品に対する加工業務用ニーズの高さなども加わり、多くの伝統的な野菜の消費が減少する中であっても需要が堅調に推移しているとみられる。堅調な需要に応じ、国産のれんこん出荷量は最近ではほぼ横ばいで推移する一方、輸入(生鮮品+塩蔵品)は減少傾向にある。

これら3品目の今年の需給動向は、天候不順で一時高値となったものもあるが、主産地の埼玉県産(さといも)、青森産(ごぼう)、茨城県産及び徳島県産(れんこん)の作柄はおおむね良好であり、卸売価格はおおむね安定的に推移すると見込まれている。ユネスコの世界無形文化遺産にも登録された「和食」の代表格とも言えるおせち料理の中でこれらの野菜が一層引き立つことが期待される。



れんこんの出荷量(平成25年)



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産産振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はペジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。  
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.aic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.aic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。